

平成29年度文化庁日本語教育大会・東京大会
 <2日目：8月27日（日）12:00～13:30>

IT・通信による日本語教育～ちょっとのぞいて触ってみよう！～

近年、学習者の増加や通信技術の発達により、日本語教育の在り方も多様化しています。インターネットやスマートフォン、通信による学習の支援など、その形態はさまざまです。ここでは、こうした「IT・通信」を活用した日本語教育を実施している先進的な団体に、その教材や学習支援の方法について紹介していただきます。



発表団体

	都道府県	団体名	紹介教材名
1	東京都	インターカルト日本語学校	○クラウド型eラーニングサービス：スーパー日本語 ○電子教材作成アプリ：Finger Board
2	東京都	社会福祉法人 さぽうとにじゅういち	○生活場面切取動画 （「生活者としての外国人」のための日本語教育事業を活用）
3	東京都	新宿日本語学校	○ひらがな・カタカナ練習帳 ○サウンドリーダー ○VLJ（Visual Learning Japanese）
4	大阪府	独立行政法人国際交流基金 関西国際センター	○JF にほんごeラーニング みなと ○ONIHONGO eな ○日本語でケアナビ ○Hiragana Memory Hint / Katakana Memory Hint ほか
5	岡山県	株式会社ラーンズ	○「家で学べる日本語通信講座」（スペイン語版） （「生活者としての外国人」のための日本語教育事業を活用したNPO法人日本ポリピア人協会と協働のもと作成） ○「社会参加のための日本語通信講座」 （文化庁第三国定住難民に対する日本語教育事業を活用）